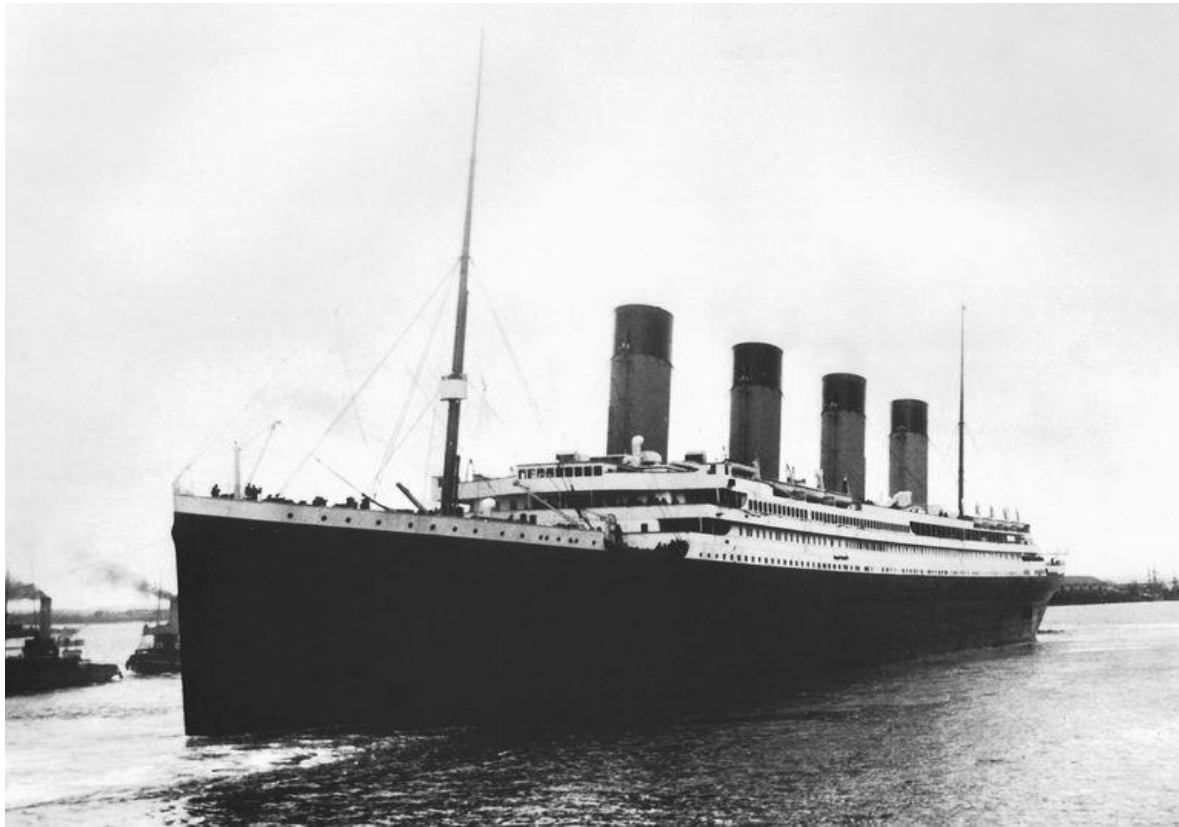


タイタニック号の沈没事故

1500人以上と言われる死者の多くは溺死でなく低体温症



タイタニック号

46,328総トン

全長 269m

幅 28.5m

1912年4月15日

2時20分頃沈没

犠牲者 1,500名以上

生存者 710名

低体温症とは

- 通常の深部体温は37度。
- 低体温症は深部体温が35度以下に低下したとき発生
 - 脇に手を差し込んで、冷たい大理石の様に感じる場合は低体温症を発症
- 筋肉に暖かさを作ろうと震えだす
- 体の深部を暖かく保つために血管収縮
- 心拍数、呼吸の低下
- 運動機能の低下、反応が遅くなる
- 発音不明瞭、吐き気、不合理な行動
- 震えが止まり、筋肉の硬直が始まる
- 意識の喪失

低体温症 対処方法

- 15度以下の海水に落水して急速に冷えるような「急性低体温症」
 - ⇒ 濡れた服は脱がせ、乾いた毛布や寝袋などで保温しながら体を温める
- 長時間寒いデッキ上にいたり、ライフラフト上にいて、ゆっくりと低体温になる「慢性低体温症」
 - ⇒ 手足や体をこすったりマッサージしたり、湯たんぽをあてる、温かいものを飲ませる、などの急激な加温措置はしてはいけない
 - 濡れた服は脱がせ、床やデッキから断熱して乾いた毛布や寝袋で体を保温する。それ以上の減損失を止め、体を内側から温める状況を作り出す。

低体温症 してはいけないこと

- アルコールを与える
- 湯たんぽ等を使用する
- マッサージ / 体をこする
- 乱暴に扱う
- 意識が混濁している、意識がない人に水分を与える